

「もっと広いエリアで中山間地活性化青年部を」など積極的な提案いくつも 中山間地対策特別委員会が板倉区で「若い人たちの意見交換会」開催

市議会中山間地対策特別委員会（委員長は私）主催の「若い人たちの意見交換会」は11日、板倉コミュニティプラザにおいて開催されました。

若い人たちを対象にした意見交換会は昨年続き二回目です。板倉区から5人、中郷区から4人、安塚区から1人参加していただきました。また、集落づくり支援員、元気な農業づくり支援員さんなどからも参加していただき、有意義な会となりました。

会では、私の方から、これまでの委員会の取り組みと意見交換会の目的について説明したのち、2班に分かれて活発な意見交換が行われました。

参加者からは、「平場に住んでいるが、土日を中心にしてヤマで田んぼをしている。除雪をしないと冬は近づけない。集落維持の活動がで



きればいいなと思っている」「このままだと10年後には一人しか住まない家ばかりになってしまふ。定年になったらいまの仕事を継いでいきたい」「（医療環境が悪く）子どもを産むのも大変だ。毎日通わなければならぬような病気だと高田ということになる」「中心市街地とのネットワークが必要ではないか。集落が移住者を受け入れるのは手遅れになっている。発想を転換し、もっと広いエリアで若い人たちのネットワークを作る、例えば山間地活性化青年部みたいなものを作るべきだ」「田んぼは2町、それとハウスで越の丸なすなどをやっている。ハウスは冬場、10日間で重油450リットル使うことがある。オータムポエム等を作っても合うのかどうか。冬の収入を確保したい」「住民組織が自立できるように支援してもらいたい」「山間地から離れていった人たちは決してそこを嫌い

になつたわけでない。地域には住める空き家がい

くつもある。親と一緒にそこに住む場合とか、その住宅をリフォームする場合、補助率を他よりも上げるなどの検討をしてほしい」などたくさん



【ノコンギク】漢字で「野紺菊」と書きます。キク科の多年草。どこでも見かける野菊ですが、よく見ると色も濃いもの薄いもの、葉も拾いもの、狭いものといろいろな変種があります。秋遅くまで咲いています。吉川区尾神にて撮影。

利用者代表は公募せず

（仮称）厚生産業会館ワークショップ

建設企業常任委員会が8日、（仮称）厚生産業会館基本設計にあたり、市民意見をどう反映させていくか、そのイメージ図が示されるとともに、作業予定も明らかにされました。

それによると、ワーキングチームにはホール施設、公民館施設、こども施設それぞれにつき、ワークショップで利用者代表を8〜10人、調整会議で2〜3人参加してもらうということでしたが、利用者代表については利用団体から選出し、一般公募はしないということでした。

市民の中には利用者団体に入っていない人の中施設を利用する人もいますし、そういう人の中からも大いに意見を出してもらうことが大事です。一般利用者の声は、公募に寄ることなく、ホームページやフォーラムで意見をもらえばいいというのは理解できません。

台風被害の伊豆大島へ募金

市内では伊豆大島への募金活動が活発になってきています。8日の市議会各派代表者会議において、私の方から「上越市と伊豆大島とは友好関係にある。今回の台風で被災した大島町を支援するため議会としても募金しよう」と訴えたところ、全員の賛成を得ました。議長と議会事務局で話し合い、具体的な方法について次回の代表者会議で決まります。

橋爪のりかずの
市政レポート

NO 1631
2013.11.17

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪法一
TEL 025-548-3628 (有線) 4867
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL <http://www.hose1.jp/>

左記の電話が通じない時、こまった時は橋爪法一の携帯電話へ
090-5392-1961

「もっと広いエリアで中山間地活性化青年部を」など積極的な提案いくつも 中山間地対策特別委員会が板倉区で「若い人たちの意見交換会」開催

市議会中山間地対策特別委員会（委員長は私）主催の「若い人たちの意見交換会」を11日、板倉コミュニティプラザで開催しました。

若い人たちを対象にした意見交換会は昨年続き二回目です。板倉区から5人、中郷区から4人、安塚区から1人参加していただきました。また、集落づくり支援員さんなどからも参加していただき、有意義な会となりました。

参加者からは、「（医療環境が悪く）子どもを産むのも大変だ。毎日通わなければならないような病気だと高田ということになる」「中心市街地とのネットワークが必要ではないか。集落が移住者を受け入れるのは手遅れになっている。発想を転換し、もっと広いエリアで若い人たちのネットワークを作る、例えば山間地活性化青年部みたいなものを作るべきだ」「田んぼは2町、それとハウスで越の丸なすなどをやっている。ハウスは冬場、10日間で重油450リットルも使うことがある。オータムポエム等を作って

も合うのかどうか。冬の収入を確保したい」「住民組織が自立できるように支援してもらいたい」「山間地から離れていった人たちは決してそこを嫌いになったわけでない。地域には住める空き家がいくつもある。親と一緒にそこに住む場合とか、その住宅をリフォームするなどの検討をしてほしい」などたくさんの方の声を寄せていただきました。

中山間地対策特別委員会では、これらの声を十分検討して市に提言していきます。ご協力くださったみなさん、ありがとうございます。

台風被害の伊豆大島へ募金

8日の市議会各派代表者会議において、私の方から「上越市と伊豆大島とは友好関係にある。今回の台風で被災した大島町を支援するため議会としても募金しよう」と訴えたところ、全員の賛成を得ました。議長と議会事務局で話し合い、具体的な方法について次回の代表者会議で決まります。



【ノコンギク】漢字で「野紺菊」と書きます。キク科の多年草。どこでも見かける野菊ですが、よく見ると色も濃いもの薄いもの、葉も拾いもの、狭いものといろいろな変種があります。秋遅くまで咲いています。吉川区尾神にて撮影。



吉川ばやし、十三夜で盛り上がる

ち、同級生同士で話を弾ませている人、小さな記念品を手作りし、初めての出会いに感謝する人などたくさん感動的な場面を目にしました。私も竹直出身のMさんから小さな記念品をいただきました。

懇親会の最後は吉川ばやしと十三夜の踊りで盛り上がりしました。この日参加した、「吉川踊り隊」（写真下）のみなさんは大活躍でした。

第21回東京吉川会が10日、東京は四ツ谷のホテルで行われました。参加者は吉川区からの参加者も入れて約80人。

会では、平山勇会長が「故郷の皆さんとの絆をますます深めたい」と挨拶。武藤和美吉川区総合事務所長がふるさとの最近の様子を伝え、私が乾杯の音頭をとらせていただきました。

懇親会では、幼友達と再会して握手する人た

春よ来い

第二七九回

いもじり

今回は「山芋掘り」の続きです。山芋掘りをしてきたことを母に伝えたところ、母も話をしてくれました。母は山芋掘りをした記憶はないと言いますが、それでいながら、家族が掘った場所についてはよく憶えているのですから不思議です。

旧旭村竹平の自分が生まれた家、「のうの」（屋号）のそばに藤尾が一望できる「イナサマ」というハサ場があり、そこから谷へ下りて行く細い道がありました。下りたところには「のうの」の田んぼがあり、その近くに川が流れていました。

母は、「稲刈りをした後、そいあげるのがたいへんだったけど。それで、鉄索で稲をハサ場にあげたもんだ。川の近くには、山芋のばかいいのがあったがと」と教えてくれました。掘りだした土は川の方へ落とせばいいだけだったということまで憶えているくらいですから、ひよっとすると、山芋掘りにして行ったか、近くで見ていることがあったのかも知れません。

もつとも、山芋を誰が掘ってきたのかについては、母の記憶は混乱しているようです。「川のそばで芋掘りしたのはイサムだろう」と母が言うものですが、「おまんが嫁に来る前にイサムが掘るわけねこてね」と言ってしまうました。イサムは大潟区に住む私の弟です。母の記憶は嫁に来る前と後で交錯しているんでしょうね。

母が旧源村尾神に嫁いでの山芋掘りの記憶も具体的でした。「ほとんど、家の近くの山だこてや……。クズレとかナナトリ、それにナカンゾの沢だな」母の頭の中には山芋のツルや黄色くなった葉が浮かんでいるようでした。母によると、山芋掘りをしたのはほとんど父だったということでした。

わが家では、つい最近まで、掘ってきた山芋はすべて「いもじり」にしてご飯にかけて食べました。「いもじり」づくりの手順は、母によると、掘ってきた芋をきれいに洗って、すり鉢の中でする。味噌汁を作っておいて、その汁をしゃもじですくっては芋にかけ、芋を少しずつ薄めていく。その作業を続け、徐々に芋の汁を増やしていくのがいいたか。「少しずつ」が大事なんだそうです。こうして最初は粘りがあったて、ころころしていた芋もだんだんとゆるみ、最後はとろとろした状態になります。

子どもの頃、わが家では、母の「いもじり」づくりが終わるのを今かいまかと待っていました。いうまでもなく、私だけでなく弟たちもです。飯台の上だか、脇だか忘れましたが、母がすり鉢に入った「いもじり」を持ってくると、すぐにご飯を盛りました。ご飯は山盛りにするのではなく、茶碗の中に少なめに入れ、それに「いもじり」をかけるよう言われました。

「いもじり」をかけたご飯はのどをするすると通り抜けていきます。しかも美味い。「いもじり」さえあれば、もう他におかずはいりませんでした。口の周りが多少かゆくなってもかまわず、急いで食べ、弟たちと競争してお代わりしました。

尾神からいまの代石（たいし）に住所を移してから、ほとんど畑で作った芋をすって「いもじり」を作りました。ただ、いまひとつ物足りない気がしていました。

それだけに、先日、久しぶりに釜平川沿いで掘ってきた山芋を使って「いもじり」を作ったときには驚きました。ものすごく粘りがあったて、するには思っていた以上に手間も力もいるのです。妻がみんなで作ると美味しいものができるね、と言いましたが、子ども時代、私が食べた「いもじり」はすべて母が一人で作ったものです。「あんなげんことぐれ、ひとりでしたこて」そういう母の言葉が心に響きました。

産業建設グループ集約で除雪体制はどうなるか

今冬の市道等の除雪計画が発表され、8日の建設企業常任委員会で質疑が行われました。計画によると車道除雪の総延長は1735kmにもなり、昨年度よりも31km増えました。

総合事務所産業建設グループの集

約による業務分担を定めた「事務手順」が示されたので、私は番外で「緊急時の業者への指示は誰が出すのか」「手順に改善すべき点が出たらすぐ改善するか」などの質問をしました。市側は、

「集約元総合事務所において緊急事態が起きた時は、その所長、次長が指示することになる」「改善すべき点が出たら改善し、議会にも報告する」と答えていました。

地 区	平成25年度			平成24年度		
	除雪延長 (km)	除雪車 台 数 (台)	1台当たり 除雪延長 (km)	除雪延長 (km)	除雪車 台 数 (台)	1台当たり 除雪延長 (km)
上越市全体	1,735.82	326	5.32	1,704.56	322	5.29
合併前上越市	755.04	142	5.32	747.88	141	5.30
安塚区	71.15	12	5.93	71.61	12	5.97
浦川原区	72.84	12	6.07	67.11	11	6.10
大島区	33.31	18	1.85	33.04	18	1.84
牧区	73.34	15	4.89	72.30	14	5.16
柿崎区	125.70	14	8.98	124.59	14	8.90
大潟区	80.31	17	4.72	78.26	17	4.60
頸城区	104.37	19	5.49	106.52	19	5.61
吉川区	85.49	13	6.58	86.25	13	6.63
中郷区	43.83	11	3.98	24.12	10	2.41
板倉区	96.28	18	5.35	97.62	18	5.42
清里区	50.88	8	6.36	50.70	8	6.34
三和区	100.81	17	5.93	102.63	17	6.04
名立区	42.47	10	4.25	41.93	10	4.19

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果（測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常の範囲は1時間当たり0.016～0.16μSv（マイクロシーベルト）だということです。

	11月6日(水)	11月13日(水)
上越南消防署	0.033	0.036
上越北消防署	0.053	0.040
新井消防署	0.057	0.053
頸北消防署	0.053	0.046
頸南消防署	0.043	0.040
東頸消防署	0.047	0.040
高士分遣所	0.053	0.050
名立分遣所	0.050	0.047